

サタデー コラム

美濃源氏の栄華 研究深まれ

美濃源氏フォーラム主催の「第30回フォーラム明智光秀シンポジウムin岐阜市」が1月16日に岐阜市南部コミュニティセンターで開催されました。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言下でしたが、大河ドラマ「麒麟がくる」の本能寺の変へ向かうタイミングでもあり、予防対策が尽くされた中で、多くの郷土歴史ファンが参加されました。

美濃源氏フォーラムは1991年に設立され、昨年30周年を迎えました。美濃源氏の歴史研究と普及を目的に、歴史研究者、郷土史家、全国的美濃源氏ゆかりの人々の参加によって、発展してきました。そのリーダーがフォーラム事務局本部の井澤康

秋田屋本店社長 中村源次郎氏



なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。県製菓審議会委員。県収用委員会委員。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。県フエニシグ協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

樹理事長です。設立に至るまでを含め、多大な時間とエネルギーを費やし、全身全霊をささげてきた姿に敬服します。

井澤氏とは、36年前に日本青年会議所(JC)の東海地区協議会で同志として活動しました。その後、氏は瑞浪JC理事長を務め、東濃の若きリーダーとして活躍し、フォーラム設立へと至りました。このたびの「麒麟がくる」の放映を機にさらに美濃源氏フォーラムの飛躍が期待されます。

先月のシンポジウムでは、柴橋正直岐阜市長と小職が冒頭であいさつしました。フォーラム設立から間もない頃、源氏を祖とする小職に、井澤氏から岐阜市での美濃源氏調査の依頼があり、一緒に北東部の太郎丸はじめ関係各所を訪問し、書物、文献の調査を実施しました。美濃源氏の研究は、東濃が盛んです。岐阜市もさらに研究を進める必要があります。

今回会場の南東300㍎の正法寺町、薬師町は、川手城跡など史跡が残っており、室町時代に栄えた場所です。1600年の関ヶ原の戦い後、江戸時代には、この地は天下を治める要の

地で豊かな土地であるため、大きな勢力が育たないよう徹底した分割統治が施されました。そのため明治以降を加えた420年間、御三家筆頭尾張藩名古屋と比べ、劣勢が続いてきました。しかし、岐阜の地は、地政学的にもリスクマネジメント面からも総合的に優れた地であります。

応仁の乱の後、京都が戦乱で荒廃し、多くの貴族、僧侶や文化人が川手に来しました。そして、当時は美濃源氏土岐氏が美濃・尾張・伊勢の3国を統治し、この地はわが国で最も栄えた都市でした。未来のいつか岐阜が再びわが国で最も繁栄し、輝く日が来ると思います。そうなるための条件はそろっています。その時こそ「麒麟がくる」時(土岐)ではないでしょうか。